

⑤蔵のある住宅

大蔵社から長居公園通りに向かうとすぐ左手に見られ、白壁と板壁の珍しい造りをしています。白壁と板壁の蔵、カイツカイブキの古木、和風とモダンの住宅が美しく調和しています。



⑥住吉子安地藏寺

地藏寺は承応3（1654）年に僧承圓（しょうえん）が建立したという天台宗の寺院です。本尊の地藏菩薩は、伝教大師作と伝えられ、地元では子安さんと親しまれています。平安時代の木造地藏菩薩立像は、大阪市指定有形文化財に指定されています。門前に百度石、門内に五大尊像があります。



⑦上田家住宅

明治43（1910）年の建築、瓦葺き切妻屋根、出格子や駒寄せなどの伝統的な町屋の形態を持っています。HOPEゾーン事業のまちなみ修景補助制度により、改修されました。昔の住吉らしいまちなみの面影が感じられます。



⑧天王山東福寺

弘法大師が開祖した当時は熊野街道沿いに位置していました。本尊の毘沙門天は、楠木正成の千早城における、念持仏といわれています。秘仏のため正月3日間にのみ開帳が行われています。他にも、室町期作の四天王が文化財として貴重です。



⑨池田家住宅

住吉大社の東参道4つ辻角にあり、表の屋根には高灯笼が置かれています。白壁の虫窓窓、防火防災のため土壁のように柱を壁で厚く覆っています。老舗味噌屋の池田屋本舗として、今でも昔ながらの製法を伝えています。屋根に設置された高灯笼、白壁の虫窓窓等外観だけでも歴史を感じます。現在も昔ながらの製法で味噌作りをしているだけでなく、建屋の保存状態も良く、熊野街道沿いにあるので、江戸期が偲べます。国の登録有形文化財に登録されています。



⑩生根神社

創立は不詳ですが延喜式神名帳（927年）に記載されています。松皮葺・一間社流（いつけんしゃながれ）造りの建物で、正面千鳥破風や扉の装飾などに、桃山時代の華麗な様式を残しています。江戸時代は住吉大社の摂社でした。生根神社本殿は大阪府有形文化財に指定されています。また、境内のクスノキ、モチノキ、エノキ、ムクノキは大阪市保存樹林に指定されています。



⑪蔵のある屋敷町

帝塚山地区には屋敷町があり、近年の建物が建ち並ぶ中で和の懐かしい文化を今に伝える家が残っています。帝塚山の住宅開発の100年とともにある蔵。よく手入れされた屋敷に屹立する白壁の蔵がとても美しいです。



⑫高谷家住宅

国の登録有形文化財及び市登録文化財（建造物）に登録されています。関東大震災を教訓にした大正13（1924）年頃の建築。耐震・防火を強く意識して鉄骨造り、外壁はレンガとコンクリートブロック積みで、堅固な構造。切妻屋根のてっぺんには風見鶏、二つの屋根窓と煙突が童話のような雰囲気を見せています。



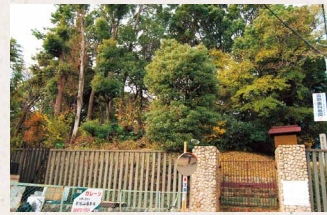
⑬WILL 帝塚山

第22回（2002年）大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）奨励賞受賞。小さい限られた敷地の中で、先代からの既存の土蔵や庭石を生かした試みは、とすれば崩れゆく風致地区周辺の住宅地の中で、美しく心地良い凖とした存在になっています。



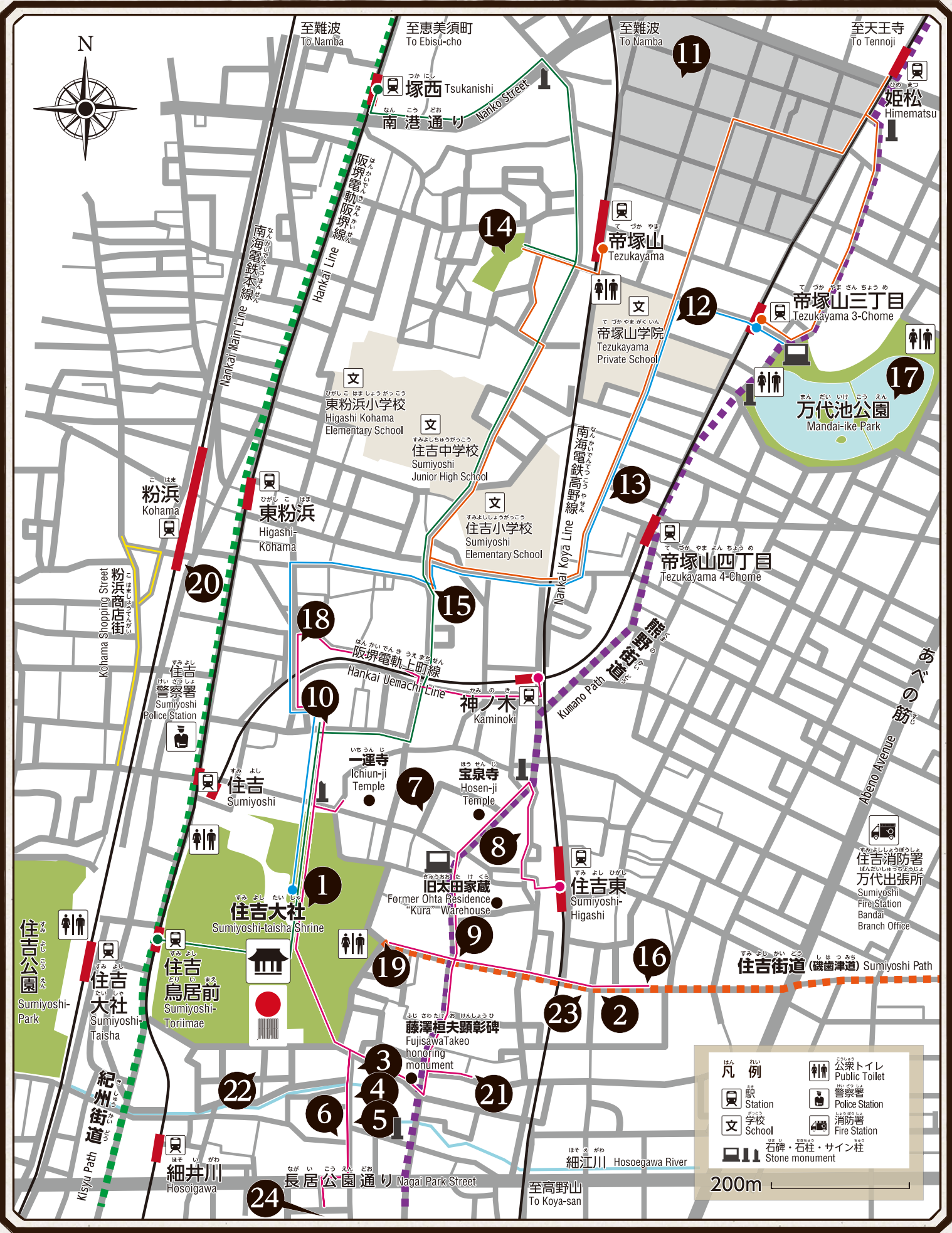
⑭帝塚山古墳

市内に残る3古墳のひとつで、5世紀頃の前方後円墳がほぼ原型をとどめているとされています。国の史跡に指定されています。埋葬者は不明ですが、この付近に居宅があった豪族大伴金村の墓という説もあります。万葉集第9巻1740番に「水江の浦島の子」が載っていることから、地元では浦島太郎の墓として伝承されています。古墳内には珍しいカンサイタンボガが群生し、春には黄色の花でいっぱいになります。



⑮帝塚山スタジオ（市川家住宅）

「帝塚山スタジオ・市川恵子フラメンコ舞踊研究所」として知られています。漆喰の壁と木がフラメンコに最適なことから、土蔵を本格的なフラメンコスタジオに再生使用しています。母屋の1階部分は和式で2階部分が洋式で和洋折衷を採り入れた造りは帝塚山地域でも非常に珍しいです。土蔵や和洋折衷を取り入れた建物の造りから歴史や文化を感じます。大阪都市景観資源に登録されています。



住吉大社～帝塚山・万代池コース 帝塚山周辺コース 住吉大社周辺コース 歴史の散歩道コース

⑯荘厳浄土寺

住吉の三大寺のひとつで、真言律宗の寺院。本尊は不動明王。創建は天慶年間の頃（930年～946年）と推定されています。応得元（1084）年白河天皇の勅願寺として再建され名を賜っています。四天王寺と並ぶ壮麗な寺院でしたが、戦火などにあって、現在に至っています。現在の堂は天和2（1682）年に再建されたものです。不動明王立像・愛染明王坐像は大阪府の有形文化財、境内は大阪府の史跡に指定されています。



⑰万代池公園

万代池公園は、昭和15（1940）年6月に開園された約4.4haの公園です。池の周囲にはサクラが植えられており、春の花の時期には池に浮かぶ小島から絶景を眺めることができます。



⑱閻魔地藏尊

地藏が閻魔大王に化身したもので、難波の浜から背負って運んで来たところ、この地で急に重くなり一歩も進めなくなったということです。冥土の苦界六道の辻が、今では1本増えて七道の辻となっています。



⑲ろうそく石

住吉大社東門（初辰さんの東門）を出た道路の両脇にあるこの石は、駒止め石だという説や鳥居の柱の一部ではないかという説があります。同じ形の石が浅沢社の南西角にもあります。



⑳粉浜万葉歌碑

「住吉の粉浜のしじみ開けも見ず隠りのみや恋ひ渡りなん」天平6（734）年3月、この歌は「万葉集」巻6にあり、聖武天皇が難波宮に行幸されたときの6首の歌のひとつで随行した大宮人の作ですが作者は不明です。碑は万葉仮名で筆は万葉研究の第一人者「犬養孝」氏。昭和59年7月に建てられたものです。犬養氏は昭和48年まで23年間、東粉浜に住した縁もあります。



㉑一休禅師鉢菜庵跡碑

一休和尚（1394年～1481年）が、晩年仮棲したところ。一休は後小松天皇の落胤と伝えられ、天衣無縫・反骨で終始京都・奈良・堺などに移り住みました。文明元（1469）年奈良から堺に来て、住吉に居住していました。翌2年、堺の豪商尾和宗臨（大徳寺伽藍再興に尽力した）が、ここに一庵を設けて一休を招請しました。一休はここを雲門庵と称し、弟子ともども移り住み、数年後この空き地の一角に庵をつくり鉢菜庵と号しました。



㉒丸山大明神

住吉仲皇子（仁徳天皇の息子で17代履中天皇の弟）は、難波宮を焼いて三日天下を取ったといわれています。しかし、18代反正天皇の刺客に刺殺され墨江の沼地に捨てられました。それを津守家が祀った地が円塚（円山）で、その後、跡地に丸山大明神が祀られたといわれています。



㉓浄光寺（油かけ地藏）

寺の入り口、左手に地藏尊が安置されています。鎌倉時代の造立かと思われる石仏で、油をかけて無病息災を祈願します。かつて疫病が流行した時に、「油を掛ければ良い」とのお告げ通りにして回復したのが始まりということです。永禄元（1558）年創建、浄土宗大本山知恩寺末。



㉔住吉行宮跡

津守氏の邸宅はこの付近一帯1万坪余りを占めていたといわれ、邸宅内の正印殿は住吉大社の神印を納め置いた館で津守国基が康平3（1060）年に創建しました。南朝の後村上天皇は正平7（1352）年と、正平15（1360）年からこの地で崩御される正平23（1368）年までの間ここを行宮（仮の皇居）とされ、南朝の首都でした。次の長慶天皇が即位されたのもこの地です。また、文禄年間（1592～1596年）豊臣秀吉が住吉神社を参拝した際の宿泊地となり、慶長4（1614）年の大坂冬の陣では徳川家康の本陣にもなりました。現在「住吉行宮」として国の史跡に指定されています。正印殿祭はこの地で崩御された後村上天皇を偲ぶ祭りで、毎年4月6日に執り行われています。



「阪堺電気軌道」

阪堺電車は現在大阪市内を走る唯一の路面電車、通称「ちん電」と呼ばれています。上町線の前身は明治33年（1900）年開業の軌道に乗った客車を馬が引く馬車鉄道でした。明治43年（1910）年には電化工事が完成し天王寺西門前～住吉神社前間で運行を開始しました。

各スポットの詳しい説明を、住吉区公式Webサイトでご覧いただけます。
<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000162573.html>



「すみよしさんぽ（動画）」

住吉区観光動画 すみよしさんぽ 住吉大社周辺・帝塚山周辺編
<https://www.city.osaka.lg.jp/sumiyoshi/page/0000433277.html>

